

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

1 本園の教育目標

◎基本理念 「みんなの笑顔があふれ、毎日が楽しい幼稚園。」

- ◎教育目標
- 健康で生き生きとした子どもを育てる
 - 集団生活のルールを守り、友達と仲良く遊べる子どもを育てる
 - 思いやりのある優しい子どもを育てる
 - 情操豊かで、自らを表現できる子どもを育てる
 - 自ら取り組み、最後までがんばれる子どもを育てる

2 本年度の重点的に取り組む目標

「子ども達の夢中を育てる」

子ども達が、興味関心をもったことを、とことんさせてあげることで、「夢中力」を育てる。子ども達の夢中に寄り添うことで、楽しいから何度でもやりたくなるような環境を心がける

☆にこにこ： 手先・指先を使った玩具を充実させ、一人ひとりが取り組める環境を整える

☆年少組： 一人一人の興味や関心を丁寧に捉え、遊びが深まるようなかかわりと環境構成を意識して取り組む。保育者自身も子供達と同じ目線で楽しむ姿勢を大切にする

☆年中組： 子ども達が自分の好きな遊びを見つけ、認め合ったり誘い合ったりしながら、クラスのみんなで夢中になって遊ぶようになる

☆年長組： 様々な事柄に意欲的に取り組みながら、自分の課題を見つけ挑戦しようとする

3 評価項目の達成及び取り組み状況

基準 / 4(取り組みやすい) → 1(取り組みに工夫や努力が必要)						評価 / A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する			
評価項目	評価指標及び評価結果					コメント			
	基準	取組指標	取組み結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価	評価に関する説明、理由	
保育内容 と計画	4	園の教育理念・教育方針を理解する	A	4	朝礼の時に大きな声で唱和し、理解に努めた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●教育理念は、朝礼の時に毎回読み合わせ、共通理解できていると思う ●教育理念・教育方針を職員全員で毎週読み合わせを行う事で、初心に返り常に念頭において保育を行う事が出来ている。 ●(挨拶)(笑顔)(掃除)で表彰があるようになり、これまで以上に意識が高まった 	
	3	子ども達が夢中で遊べるような工夫する	B	3	子ども達が夢中で遊ぶ姿が見られるようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●学期ごとに夢中になって遊べることを学年で計画し取り組んだ。 ●夢中で遊びこむことは出来ていたが、環境構成などでもう少し工夫が出来たのではないかと考えた ●新しい玩具の提供をしていただいたことで、手先を使うような遊びに夢中になることができていた。完成したブロック等を、他児と見せ合うことでより一層達成感や喜びに繋げることができた 	
	2	各学年の目標に向けての取り組みを継続して行う	B	2	子ども達が遊びに夢中になり、継続して遊びたいと感じられるようになった	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●「子ども達の夢中を育てる」という教育目標について学年で子供たちが楽しんで取り組めることを話し合い目標を立てた。クラスの子ども達が夢中になって遊んでいること(なわとびや鬼ごっこ)を担当がクラスの中で知らせることで、その遊びに興味をもつ子どもが増えて、友だち同士と一緒に楽しんで遊ぶ姿が多く見られるようになってきた ●行事を通して、子ども達が自分たちで話し合いながら進めていく中で、夢中になって取り組めるように声かけや援助を心掛けた ●今年度の保育目標を達成するにあたって、行事が多すぎて、継続して遊び込める時間の確保が難しいと感じた。行事の大切さと、遊びこむための工夫とのバランスがとれるように考えていきたい 	
	1	英語学習システム「サイバードリーム」や「漢字絵本」「俳句」に毎日取り組んでいるか	B	1	毎日の取り組みの中で、子ども達が楽しみにするようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●サイバードリームや論語・俳句に関しては、大きな行事の時には滞りがちになってしまうので、時間配分の工夫が必要である ●以前より少しでも時間を見つけて意識して取り組めたように感じる。特にサイバードリームは行事のある中でも行うことが出来る日が多かったように思う ●サイバードリームなどは、なるべく毎日行えるよう行う時間帯を工夫してきた。しかし、発表会前で時間が取れず出来ない日もあった為、毎日行うことが出来なかった ●にこにこクラスでは、サイバードリームの教材が1台しかないため、クラス毎順番に回して取り組んでいる。飽きのこない頻度でちょうどよい感じである 	

子どもの接し方・保育の在り方	4	子ども達一人一人を認め理解に努めている	A	4	子ども達のエピソードを忘れないように書き留めるようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達一人一人に合った援助や声掛けをするように心掛けた。また、どんな活動においても子ども達に伝えたいことを自分の中で明確にした上で保育をするように意識をした ●毎日、その日のうちに日々の保育を振り返り、子ども一人一人の成長や変化等を記録に残したり、今後の課題や目標に向けて考えたりすることができた。 ●一人一人に寄り添い認め、子ども達理解に努めているが、保育時間の中でエピソードを書き留めることは難しかった。週の反省には、記録している ●自分だけでなく他の先生方の保育を見る場やアドバイスをもらう場があることで自身の保育を振り返りより良い保育ができるように工夫されている
	3	毎日の保育を振り返り、以後の保育に活かすようにする	A	3	週の反省を記録することで、クラスの子どもの様子が把握できた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●その日の保育を降園前に子ども達と共に振り返り、良かったところや楽しかったことなどの意見を出し合うことで、子ども達自らが気づき、次の活動や成長につながるよう取り組んでいる ●週の反省を書くことで子ども達への対応やその日の保育について振り返り反省をいかすことが出来ているように感じる ●行事前になると、週の反省をためてしまい提出が遅くなるがあった。それでも、これまでに比べて必ず書く習慣がつき提出の仕方がかわって自分のためにはよかった
	2	創意工夫をもって保育を実践する	B	2	クラスの実態を踏まえ、どのような活動が楽しめるか自ら考えるようになった	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達の遊びが発展するよう、遊びの提案をするよう心掛けてきた ●教師の一方的な保育ではなく子ども達が自ら考えてやってみようと思えるような活動になるよう心掛けてきた。また友達同士を思いやる気持ちをもつように働きかけるようにしてきた。 ●行事前は、遊びへの工夫が少なくなってしまう同じ遊びをする日が続いてしまうことがあった。今後は余裕を持って季節を感じられる遊びを考えて増やせるよう改善していきたい
	1	褒めたり励ましたりしながら、子ども達が自信をもって活動できるような指導を行う	A	1	一人一人の良いところをクラスのみんなで認め合う機会が増えた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●活動の中で、できなかった事が出来るようになった時は、ただ褒めるだけではなく、それまでの頑張ってきた過程も褒めるようにした。また、体育など、体を動かすことに、苦手意識がある子ども達にも安心して挑戦できるような環境を作れるよう意識してきた ●褒めると子ども達がすごく楽しそうに沢山の事に取り組んでくれるので、褒めながら取り組めるように工夫した ●クラスで子ども達がお互いを褒め合う時間を作ることで、自信を持ったり褒められる喜びを感じたりできるようにしている。また、友だちの良い所を見つけることもできるようになっている ●子ども達の率直な声を聞き逃さないように気を付けて保育してきた ●たくさんの行事がある中で、苦手意識のある子どもにはその都度寄り添うことを意識した。できた時には一緒に喜び合い、自信につながるよう関わってきた。 また、自分の感情を言葉にする事が苦手な子どもには、就学前の大切な時期なので小学校に行きたくないよう、自分の気持ちを言葉で伝えられるように、個別で時間をとって話すことを心がけた。 ●2歳の頃を見ていることで、少しの成長や成功がとても素晴らしいことだと自分自身も感じることができ、一緒に喜び褒めることへ繋がった。
環境構成	4	子ども達の興味関心を育む環境構成を考える	B	4	用意した室内環境で喜んで遊んでいた	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ●玩具を購入して頂き、子ども達が喜んで遊ぶ様子がたくさん見られた。興味がある玩具を揃えていただき、毎日様々な玩具で遊ぶことができています ●いつも同じような環境構成ではなく子どもの興味や発想が生まれるような環境を自分自身も心がけていきたいと思うが、なかなか実行できていない ●行事に追われたことや、自分自身に余裕がなかったこともあり、環境構成まではあまり取り組めなかったと思う
	3	子ども達と一緒に遊具の安全な使い方、けがの予防について考える	A	3	遊具や道具の使い方を守って遊ぶようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●遊びながら見回るなかで正しい使い方遊び方が出来ていない子どもには再度声を掛け気付けるようにしている ●約束事を子ども達にしっかり伝えながら遊びを見守り、少しずつ安全に行動範囲を広げられるようにしている ●遊具の安全については、終礼で上の先生が危険箇所を呼びかけて気を付けるようにしているが、若い先生からも報告しやすいよう工夫が必要だと思う
	2	園内の、安全で清潔な環境構成を心がける(園庭を含む)	C	2	園内の危険個所に目を向けるようになった	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ●園外での抜け出し事案があり、改善に向けて様々な取り決めが行われた。保育者はもちろんのこと、保護者にもお願いをして安全管理について大きく見直された年だった ●玄関、にこにこ通用口のオートロック、年少組入口の扉設定など、安全面での改善が行われ、保護者からも安心の声が寄せられた ●外遊びの際に、約束をし遊具の使い方や遊び方について一緒に確認するようにしている。 ●遊具の釘が出ていたり、破損したものがあつたりすると、子ども達が先生に声を掛けてくれるようになった(アスレチック遊具の改装工事を行った)
	1	季節が感じられる等、豊かな感性を育むことができる工夫をする	A	1	子ども達がイメージを広げ自分たちの遊びを発展させようとする姿が多くみられた	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●食事の際にも季節の食材が使われている時には子ども達に興味を持ってもらえるような話をしてきた ●季節に合った掲示物や製作をするよう心掛けてきた ●保育室を季節に応じた装飾にしたり、掲示物でも季節を感じられるように工夫した。また季節の行事の際には子ども達に必ず話をするように心掛けた ●季節の自然物を取り入れて保育をしたり、目的をもって園外へ出かけたりすることが少なく、子ども達が自分たちでイメージを広げて遊べるような工夫が必要だと感じる
教職員相互の協力連携・役割	4	報告・連絡・相談を適切に行う	A	4	小さなことも上の先生に相談するようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●終礼で伝えたり、クラスでのトラブルや相談は学年の先生や主任の先生に必ず伝えるようにしてきた。相談することで対応の仕方を学ぶことができて良かった ●小さなことでも学年の先生に相談することで自分自身の学びにも繋がった ●クラスでの問題で困ったことや自分だけで判断できない事は、先輩の先生方に相談し、アドバイスを頂いてきた ●預かりの先生や、バス添乗の先生への報告・連絡が曖昧なところがあるので、改善が必要である ●先輩の先生方が親身になって相談に乗ってくださることが多く、安心して保育に取り組むことができた。また、話しやすい環境だった為、分からないことや不安なことその都度相談することができ、丁寧に教えていただけた。
	3	守秘義務を守る	A	3	園で知った情報を外部に漏らすことのないよう日頃から気を付けている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●保育者として必ず守るべきことだと思うので、意識して気を付けるようにしている ●支援児の情報などを記したものを、職員室に乱雑に置かれていることがあったので、口外しないだけでなく、書類の取り扱いなどにも気を配るように気を付けたい
	2	後輩への指導を適切に行う	B	2	気づいたときにその場で声をかけ知らせるようにした	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ●学年内での協力や連携はとれていたが他学年とは伝達不足だったことがいくつかあった。後輩指導に対しては今の時代、どこまでが指導なのかが非常に難しい。保護者に対して後々トラブルになることが予測される場合は前もって注意をするようにしてきた。後輩の頑張っている点を認め、改善すべき点はシンプルにわかりやすく伝えてきた。 ●学年で共通理解できるよう丁寧な心がけながら話し合ってきたが、不十分な面もあった。伝えたり指導するだけでなく、その後の確認も確実にする必要があったと感じた ●後輩指導の難しさを改めて感じた一年だった。「この説明で分かるだろう」ではなく、一つ一つ丁寧にすることを一緒に確認しながら行なっていった。その分、後輩の先生とのコミュニケーションはよく取れたのではないと思う。
	1	教職員が共有すべき必要な情報を共通理解する	A	1	終礼、職員会議においてしっかりメモをとるようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●週に2回の終礼の際に、クラスで起こったことを報告し合うことで、共通理解ができていると思う ●週2回の終礼を通して、共有すべき必要な子ども達の情報は得られていると思う ●気になる子どもの様子は、職員会議でしっかりと伝え、多くの目で見守ってもらえるように協力して頂いた。また、職員会議での報告があることで他のクラスの子どもの事を理解する事ができ、見回りの際に気をつけて見守ることができた

特に配慮が必要な子ども達への配慮	4	保護者の相談を親身に受ける	A	4	自ら声をかけ、相談しやすい雰囲気づくりに努めた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者と話す時には、言葉を選び子どもの園での様子成長をわかりやすく伝えるようにしてきた ●相談があったときには保護者の気持ちも受け止めながら園であった様子を伝えた。
	3	個々の子ども達の情報を職員間で共有するようにしている	A	3	個別の話し合いを職員間で行い担任だけでなくすべての先生で把握するようになった	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●主任の先生に相談し、クラス内だけで抱え込むことなく相談できている。支援につながる方法も学ぶ所ができた ●保護者からの相談や質問を受けた際に、自分自身の中で曖昧な部分は無理に答えずに他の職員へ聞いてから正しいことを伝えるよう気をつけた。 ●情報共有は大事だと思う。特に配慮が必要な子どもには、補助の先生にもその日の状況、状態を伝え、共有するべきだと思う。
	2	段階を踏みながら、必要な情報を保護者に伝えていく	A	2	伝えるところが気になるところばかりにならないよう、良い面を努めてみつけるようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●性格なのかどうなのかという難しい子に対しては個人懇談などで保護者の方とも話し合い施設支援に繋げるようにした ●個人懇談を通して、園内での様子、家庭での様子を共有し、気になるお子さんには施設支援や療育センター、事業所などに繋げてきた ●教育相談や就学相談などは、保護者の方と連絡を取り、段階を踏んで行うことが出来ている
	1	医療機関や補助教諭と連携をとり、情報交換を行い支援に役立てる	A	1	支援の必要な子ども達の様子や、支援の方向性を努めて見つけるようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●補助の先生についていただくことにより、配慮が必要な子が活動に参加することが難しい時でも他の子を待たせずにスムーズに行うことが出来た ●支援の必要な子ども達を、専門の外部講師に依頼し、学期に1回ずつ見てもらうことで、相談ができてよかった ●配慮が必要な子ども達に対しては、毎日補助に入る先生が違うので、個別のファイルを作り、短文で良いのでその日の様子を書き留めていくなど工夫したい また、補助の先生に頼りきりになってしまうことのないように自分でできる所は自分で行うように心掛け、担任とのコミュニケーションも大切にしたい
保護者への対応・家庭支援	4	子ども達の成長や変化を保護者に伝える	A	4	子ども達が楽しく過ごしている様子を伝え、成長の喜びを共有できるようになった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●クラスだよりやおたよりを配布したり、送迎時や電話にて様子を伝えたりしてきた。小さな出来たことも保護者に伝えるようにした ●連絡カードではなく、アプリ機能を使うことで一覧で見れるようになり、保護者からの連絡が把握しやすくなった ●連絡帳機能に、保護者も保育者も慣れ、電話をかけるほどではないけれど、伝えておきたいと思うような細かいことでも保護者の方へ伝えることができるようになった ●保護者に伝える時は頭の中で一度整理してから伝えるようにしていた。本当にこの言い方でいいのかや話す順番など考えた ●2歳児クラスでは、クラスだよりやおたより、週に1、2回のメール配信にて子ども達の様子を保護者に知らせるようにしている。 とくにインスタグラムは、リアルタイムで動画を配信できることにより子どもの様子が目に見える事で不安軽減にも繋がっているようだ。保護者より大変好評である。
	3	保護者との対応は公平を欠かさないように心がける	A	3	どの保護者とも話すことが楽しくなった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●送迎等で直接お会いする方や、気になることがある園児の保護者とは密に連絡が取れていたように思うが、その他の保護者との連絡回数と比べると、差があったように思う ●どうしても電話連絡が偏ってしまうことがあるが改善は難しい ●保護者と子ども達の話をするときは、一緒に喜びあったり、かわいいエピソードに笑いあったり楽しい時間となっている
	2	保護者からの様々な相談に対して適切に対応する	A	2	伝えたいことが整理できるようになった	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ●送迎の際や、個人懇談の際に子ども達の気になることや日々の成長を話すことができている。また、懇談では予めアンケートで質問をまとめていたことで、事前に考える時間がありより親身になって話すことができたと思う ●良いことはしっかりと伝え共有してきた。また園での気になる様子についてもしっかりと伝えるようにし、課題点も共有するようになってきた ●どんな相談でも、悩んでいる保護者には共感したり労らったりした上で、一緒に解決策を考えるように心掛けた
	1	子ども達の気になる様子を保護者に伝え、改善策を園と家庭とで一緒に取り組む	A	1	年齢に応じた相談に対応できるように、研修会に参加したり、本を読んだり、自らも学習の機会をもつようになった	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者の生活様式や考え方の変化を敏感に感じ取り、理解するよう努めている。その上で個の子ども達にとって最大限必要な支援を受けられるよう働きかけている ●保護者からの様々な相談に対して、自信をもって答えられるように学びを深めていきたい ●処遇改善のための研修を受けることにより、学生時代に学んだことから時代と共に変わっていることや、改めて教育要領について見直したりと深い学びの合った一年だった

4 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価	理由
A	自己評価を行い、改善すべき点が見えてきた。今年度は、暑さ対策でタベの集いのやり方を変えてみた。新しい試みではハロウィンパーティーも行った。どんな時も子ども達のことを一番に考え、今どんなことに興味をもっているのか?どんなことをするとより楽しめるのか?これまで通りのすすめ方で本当に良いのか?など話し合う機会もたくさんあった。今後もPDCA（目標・実行・評価・改善）のサイクルに基づき、充実した園生活を送れるよう柔軟に対応していきたいと思う。

5 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	園児が、園外に抜け出してしまおうという大変な事案がおこった。保護者にも、不安な思いをさせてしまい大変反省している。この事案をきっかけに、園内外の安全管理については、話し合いを重ね保育者の意識が向上している。また、玄関や、ここここクラス横の通路が電子錠となったり、年少組保育室への階段前に鍵付きの扉の設置がされた。保護者の協力もあり、吊り下げ名札着用の徹底、ドア開閉時の安全確認など改善の方向へと進んでいる。今後も、安全については気付いた時にすぐに報告しあい共通理解するとともに、同じようなことが二度と起こらないよう心掛けていきたい
配慮の必要な子への対応	今年度は、発達支援の専門の先生に学期に一度、全クラスの様子をみもらった。夏休みには、職員間で共通理解できるように研修会も行った。困ったことに直面した時に相談ができてよかった。担任の先生が一人で抱え込むことのないように、園全体で一人一人の子ども達を見ていくという姿勢を、職員全員が意識できるようにしていきたい

6 学校評価委員会の評価

一年間、大変お疲れさまでした。

今年の報告書は、昨年後よりもさらに充実しており、写真を交えた内容になっていた事で、日々の保育や行事の様子がより具体的に伝わる、大変分かりやす、報告書になっていたと感じました。

今年度の取り組みの中で特に印象が強ったのは、支援が必要な子どもたちへの対応として、専門の外部講師による助言を取り入れ、医療機関や教職員と連携しながら情報共有を行っている点です。子ども一人ひとりに寄り添った保育につながる良い取り組みだと思えます。また、「挨拶」「笑顔」「掃除」といった日常の行動に着目した先生方への表彰も、職員のモチベーション向上や園全体の温かい雰囲気づくりにつながる良い取り組みだと思えます。一方で、安全管理に関する課題も報告されていましたが、これは幼稚園だけでなく、保護者も含めた関係者全員が意識を高め、共に取り組んでいくことが大切であると感じました。今回の経験を一つの学びとし、今後も継続して安全意識を高めていくことで、子どもたちが、より安心して過ごせる環境づくりにつながっていくことを期待しています。

評価委員会を通じて、先生方の日々の努力と温かい関わりが、子どもたちの成長を支えていることを改めて感じました。ありがとうございました。

毎日子どもたちへ愛情を持って接して下さりありがとうございます。役員を3年間させて頂き、先生方のお手伝いが出来た事、子ども達の成長を近くで見る事が出来た事、心から感謝しています。

今年度の評価報告書についてお話を伺うことができ、園でのPDCA（目標・実行、評価・改善）のサイクルを知りました。日々より良い保育を目指して取り組んでおられることが分かり、フレンズ幼稚園に子どもを預けて本当に良かったと感じました。自己評価が丁寧に行われており、良かった事、出来なかった事・改善点が分かりやすく感じました。これからも子どもたちのために温かい保育を続けていただけましたら幸いです。先生方のご尽力に、改めて感謝申し上げます。

先日は、評価委員会ありがとうございました。幼稚園の考え方や先生方の意見を知ることができ、とても貴重な時間となりました。

たくさんの子供達がいる、たくさんの行事があって、大変なことも本当に多いと思えます。そんな中でどうしたら子供達が毎日楽しく幼稚園に通えるか、どうしたら子供達が自分自身で考え行動できるか、子供達の可能性を引き出せるか、いつも一生懸命に子供とそして保護者と向き合ってください、感謝しかありません。先生同士で意見を言いやすい環境作りもされていて、良いことも悪いことも共有して改善できる環境ができているということは、保護者としても安心に繋がります。

先生と保護者、立場は違いますが子供達のために考えて行動するという共通の思いがあります。全ての子供達、そして大人達が笑顔で過ごせる幼稚園でありたい、そう考えます。

いつも本当にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

・保育内容は園の教育理念と教育目標に基き取り組まれている。しかし先生たちのコメントに「行事が多く、行事前は、行事に追われた」などがある。子どもが夢中になる時間と行事のバランスを取るの難しいと思うが、その時その時のベターで対応するのはどうだろうか。子どもとの接し方は、各先生一人ひとりの子どもと向き合って保育されていると思う。

・子どもたちの自主性を育む保育をされていると思う。環境構成は子どもがより遊びやすいように、取り組みやすいように、発展しやすいようにと先生たちの努力を感じる。

・先生たち相互の関係は、園として全体的に良いと思う。各先生が後輩の先生への指導を大切にしていることも評価でき、今後もより良い関係が深まると思う。

配慮が必要な子どもに対しても各担任が主任、補助の先生と情報の共有を心掛けていることは評価できる。又、専門の外部の先生を招いている点も良い

・保護者、家庭には小さな変化や小さな気付きまで伝えており、丁寧な対応をしていると思う。保護者の安心につながる。園の安全面に関しては外からのリスクはもちろんのこと、遊具を含め園内全体の安全への改善が進められている。

・取り組む目標や、課題を各先生が明確にしており、自己の評価も出来ていると感じる。学校として総合的にも良いと評価する。

委員会実施日

令和8年 2月 24日 (火)